

審査意見(6月)(資料)

【目次】

資料1 授業概要

資料1 授業概要

全15回の授業内容の概要を以下に記載する。

回	タイトル	授業概要	教員グループ (G=グループ)	DP
1	オリエンテーション	課題解決の目的とプロセスの理解	全教員	
2	課題の背景理解1 (定量)	【講義・演習】課題の背景理解1(定量)(数理・情報技術の理解を踏まえた課題の定量分析の解説)	数理G・情報G	DP1・DP3
3	課題の背景理解2 (定量)	【演習】課題の背景理解2(定量) (デジタルツールを活用した数理・情報技術の理解を踏まえた課題の定量分析の実践)	数理G・情報G	DP1・DP3
4	課題の背景理解3 (定性)	【講義・演習】課題の背景理解3(定性)(情報収集力を用いた課題分析、多様な考え方・手法の解説)	人文社会G・経済経営G	DP2・DP3
5	課題の背景理解4 (定性)	【演習】課題の背景理解4(定性)(デジタルツールと多様な考え方・手法を活用した定性分析の実践)	人文社会G・経済経営G	DP2・DP3
6	課題解決スキル演習1	【講義・演習】課題解決スキル演習1(課題抽出の実践例を解説)	全教員	DP1～DP4
7	課題解決スキル演習2	【演習】課題解決スキル演習2(全体課題に対し定量・定性分析に基づく適切な課題を抽出)	全教員	DP1～DP4
8	中間レポート・相互フィードバック1	【演習】中間レポート・相互フィードバック1(フィードバックの目的方法の解説と、発表、相互フィードバック)	全教員	DP1～DP4
9	課題解決アウトプット演習1	【講義・演習】課題解決アウトプット演習1(帰納的・演繹的な考え方と活用の解説)	数理G、人文社会G	DP3・DP4
10	課題解決アウトプット演習2	【演習】課題解決アウトプット演習2(帰納的・演繹的な考え方と活用の実践)	数理G、人文社会G	DP3・DP4
11	課題解決アウトプット演習3	【講義・演習】課題解決アウトプット演習3(ステークホルダーの理解と解決策に向けた手法の解説)	人文社会G、経済経営G	DP2～DP4
12	課題解決アウトプット演習4	【演習】課題解決アウトプット演習4(ステークホルダーなどの考え方も踏まえた解決策の検討と最終成果物の準備)	人文社会G、経済経営G	DP2～DP4

13	課題解決アウトプット演習5	【講義・演習】課題解決アウトプット演習5（最終成果物の発表に向けた伝え方、表現手法の解説）	情報G、経済経営G	DP2～DP4
14	最終成果物の発表・相互フィードバック2	【演習】最終成果物の発表・相互フィードバック2（発表、相互フィードバックの実践）	情報G、経済経営G	DP1～DP4
15	まとめ	【講義・演習】最終講評	全教員	DP1～DP4

なお、授業における統一テーマは、毎年担当教員の協議の下に決定される。以下に、授業で取り扱う統一テーマを「緑化と環境問題」とした場合の、15回の授業回の内容の詳細を概観する。

第1回

タイトル	オリエンテーション
授業概要	課題解決の目的とプロセスの理解
担当の教員グループ・方法論	全教員 初回のため各教員グループがそれぞれの方法論を概観
到達目標・DPとの関係	知能情報社会で活躍するために、数理・情報・人文・社会など多様な学問分野のものの考え方を修得することがなぜ重要かを改めて学生に意識づけ、学生が授業目標を目指して各回の講義や演習にあたるようにする。
授業詳細	講義パート（180分） 学長より知能情報社会における横断的な学びの重要性と授業の概要を説明した後、各教員グループの担当教員より、グループが担当する領域ごとの学びの方向性とポイントを解説する。
指導補助チームへの研修事項	・卒業プロジェクトのコンセプトと全体概要 ・各回ごとに学生に伝えたい、社会に出た後も学生が活用できるものの見方・考え方に関する概要
評価方法	講義内容への学生の理解度を確認するための確認テストを、講義終了後に課す。
授業課題と評価の例（緑化と環境問題をテーマ例として）	講義で紹介された方法論を適切に理解できているかが、問われる。一例として、人文社会グループの教員から説明のあった参与観察の方法論に関して、正しい理解を問う複数選択の問題が出題される。問題全体についての正答率に基づき評価がなされる。

第2回

タイトル	課題の背景理解1(定量)
授業概要	【講義・演習】課題の背景理解1(定量)(数理・情報技術の理解を踏まえた課題の定量分析の解説)
担当の教員グループ・方法論	数理グループ・情報グループ 数的データを扱う定量研究の方法論
到達目標・DPとの関係	社会問題の背景を理解する手段として、定量分析の基礎的な手法を理解し、活用できる状態となる。 定量的なデータの収集、分析の手法を理解し、数値を基にした分析の結果解析・評価ができるようになる。
授業詳細	①講義パート(120分) 定量研究の基本的な考え方、定性研究との比較における特徴を教授する。従属変数、独立変数の概念を説明し、数量的データを用いた論理的な分析の仕方を解説する。 具体的な手法として、統計学の手法を用いた、表計算ツールでのデータ分析方法を紹介する。演習で実践する相関分析に加え、発展的な手法に取り組みたい学生に向けて回帰分析の論理と方法の解説を行う。また、授業担当教員が任意の緑化に関するデータを活用し、定量分析の実演を行う。 ②演習パート(60分) 講義部分で学んだ知識の実践として、教員が指定した緑化に関する統計データを用い、表計算ツールを用いて、データごとの関係性の分析や、表を使った分析結果の表現を修得する。
指導補助チームへの研修事項	・定量研究の特徴 ・定量研究に関連する基礎的な概念 ・数値分析の手法(統計分析を表計算ツールを用いて行う方法) ・信頼できるデータの参照先について ・課題の評価方法
評価方法	①講義パート:確認テスト ②演習パート:学生は、提示された課題に対して表計算ツールを用いて回答を提出する。授業課題のフォーマットは出題する教員のテーマに合わせ作成し、学生はそのフォーマットに従って回答を入力し提出を行う。 提出フォーマットに沿って、下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。 i 出典を明記し、一次データを正確に引用できているか。 ii 引用したデータを指定されたフォーマットに整えて記載できているか。 iii 指定された関数を用い、データの計算結果を算出できているか。 iv 算出した数値に対して正確な評価を行い、結果の要因を一つ以上指摘できているか。

授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業内容の一例として、神奈川県逗子市の過去10年緑地面積と人口の推移の間の相関関係を分析すると仮定すると、授業課題と評価方法の詳細は以下ようになる。 授業課題 - i 授業内で紹介された逗子市の緑地面積と人口の推移が記されたデータを、教員が指定した引用スタイルで参考資料として記載する。 - ii 逗子市の過去10年の緑地面積と人口のデータを時系列降順でそれぞれ整理する。 - iii CORREL関数を用い、逗子市の緑地面積と人口の二つのデータに関して相関分析を行う。 - iv 相関分析の結果算出された数値に対して、相関関係の強弱を正しく判定し、結果の背景について考察を記述する。 評価方法: 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。
--	--

第3回

タイトル	課題の背景理解2(定量)
授業概要	【演習】課題の背景理解2(定量) (デジタルツールを活用した数理・情報技術の理解を踏まえた課題の定量分析の実践)
担当の教員グループ・方法論	数理グループ・情報グループ 数的データを扱う定量研究の方法論
到達目標・DPとの関係	指定された範囲で、自ら定量的なデータの収集、分析、並びに分析手段の検討を行うことができるようになる。また、数理的な基礎知識を基にデータ分析を行う観点、統計知識を基盤としつつ社会課題を複合的な視点で論じることができるようになる。
授業詳細	①講義(30分) 担当教員がデータの探し方、第2回で紹介した分析手法のリキャップを行う。 ②演習(60分) 受講者は5名のグループに分かれ、全体テーマに関連するデータの中で調べてみたいものを選び、量的研究の手法を用いて二つのデータの相関分析、もしくは回帰分析を行い、得られた結果に対する考察を記載する。なお、参照先データとしては、各自治体、政府、国際機関の公開している数的データを活用する。 学生には、使用するデータ、参照元、分析結果、結果の考察を記載するテンプレートが用意される。学生グループは所定の欄に自身の回答を記入していく。 AA・TAは授業中、学生からの質問・相談を受け付け、演習の実行を補助する。 ③講義(30分) 分析につまづいた学生グループを想定した、定量的分析において抑えるべきポイントと、分析が進んでいる学生に向けたより挑戦的な分析手法のレクチャーを行い、学生グループが議論を前に進められるよう補佐する。 ④演習(60分) 最終的な授業課題の提出に向けた分析・ブラッシュアップを行う。授業補助者であるAA・TAとの相談、割り当てられた授業内グループのメンバーと相互フィードバックを通し、グループとして提出する授業課題の内容の改善に取り組む。
指導補助チームへの研修事項	・演習のファシリテーション方法 ・ワークの作業手順

評価方法	①講義パート:確認テスト ②演習パート: 提出フォーマットに沿って、下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。 i 統一テーマに関連するデータを分析対象として選出できているか ii 出典を明記し、一次データを正確に引用できているか。 iii 引用したデータをフォーマットに整えて記載できているか iv 集めたデータに対し、相関分析もしくは回帰分析を正しく実施できているか。 v 分析の結果に対して、その要因として挙げられるものを記載できているか。
授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題: i 緑化に関連する、任意の自治体・地域の統計データを選出する。例えば、神奈川県茅ヶ崎市を事例として選択した場合、その自治体が後悔している統計データを抽出し明記する。 ii 選出したデータを教員の指示した引用スタイルで参考文献として記す。また、引用したWebサイトのURLをアクセス日の記述とともに付記する。 iii 引用した二つの統計データを対応するように並列して整理する。例えば、神奈川県茅ヶ崎市の緑地面積と未成年の人口比率を抽出した場合、それぞれデータの収集年度を基に降順で記載する。 iv 引用したデータに対して、関数を用いて相関分析、もしくは回帰分析を行い、その結果算出された数値と結果への評価を記載する。上述の例に従えば、未成年の人口比率を独立変数、緑地面積を従属変数と仮定し、回帰分析を行い、その結果仮説が正しかったかの判定を行う。 v ivの分析結果の要因を記載する。上述の例に従えば、例えば未成年の人口比率が緑地面積に影響する要因と認められた場合、若年層の環境教育の観点で緑地化政策が盛んに実施されたなどの要因となる背景を記述する。 評価方法: 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。

第4回

タイトル	課題の背景理解3(定性)
授業概要	【講義・演習】課題の背景理解3(定性)(情報収集力を用いた課題分析、多様な考え方・手法の解説)
担当の教員グループ・方法論	人文社会グループ 質的データを用いた定性研究の方法論
到達目標・DPとの関係	社会問題の背景を分析する手法として、定性研究の基礎的な方法論を習得する。 適切な方法で情報収集・分析を行い、研究対象の固有性を社会の多様性の文脈の中で理解することができるようになる。
授業詳細	①講義パート(120分) 定性研究の特徴を、定量研究との比較をしながら解説する。事例研究、インタビュー調査、参与観察などの基礎的な定性研究の手法を紹介し、教員の研究における事例も提示する。 演習パートへの接続として、統一テーマに関連する取り組みを取り上げ、概略と演習パートで学生が確認すべき観点を提示する。 ②演習パート(60分) 事例研究の実践として、教員が定めた形式で定性的な分析を行う。教員は学生に、所定の統一テーマに関する資料と、回答項目を定めた回答用のフォームを併せて配布する。学生は、資料を読解し、フォームに記載された回答項目に自身の分析を記載し回答する。
指導補助チームへの研修事項	・定性研究の特徴 ・定性研究の基本的な手法 ・講義内で取り上げる事例についての背景知識 ・適切な事例の探し方 ・課題の評価方法
評価方法	①講義パート: 確認テスト ②演習パート: 提出フォーマットに沿って、下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。 i 授業課題として配布された資料を読解し、要約できているか。 ii 授業課題内で提示された質問に対して、根拠を明記した上で回答ができているか。 iii 授業課題資料として配布された資料から、どのような研究手法が用いられているかを指摘した上で、その研究手法の利点と限界を記述する。

授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題: i : 授業課題として配布された資料の要約を記述する。例えば、神奈川県鎌倉市の市民ネットワークによる緑化活動についての論文が課題として配布された場合は、その論文内で示されている成功した複数個の要因に関して記述できているかが、評価基準となる。 ii : 配布資料に関する、複数項目のクイズに関して、正しく回答する。上述の例の場合、市民ネットワークのどのような特徴が緑化に良い影響を及ぼしたかなどの問題が想定される。 iii : 配布資料に関して、用いられている研究手法を記載し、その利点と限界を記述する。上述の例の場合、該当論文はインタビュー調査を行っているが、サンプル数の確保などに限界を指摘するなどが回答となる。講義パートの内容の理解を確認する。 評価方法: 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。
--	---

第5回:

タイトル	課題の背景理解4(定性)
授業概要	【演習】課題の背景理解4(定性)(デジタルツールと多様な考え方・手法を活用した定性分析の実践)
担当の教員グループ・方法論	人文社会グループ 質的データを用いた定性研究の方法論
到達目標・DPとの関係	社会問題の複雑性の理解(DP3)を基に、デジタルツール(DP2)を活用し、正確で説得力のある分析結果の記述を行うことができるようになる。
授業詳細	①講義パート(30分) 第2回で紹介した分析手法のリキャップを行う。 演習パートで行う授業課題の進め方を説明する。進行に必要な基礎的なAIツールの使い方を解説し、授業内の最終成果物の作成フォーマットを提示する。 ②演習パート(120分) 学生グループは統一テーマに関する2つの事例を比較し、分析し、その違いの背景となっている要因を3つ以上指摘する。デジタルツールを用いながら、国内外の任意の事例を選択し、参考資料を取得し比較検討を行う。比較の観点は、文化、政策、経済などの異なる分野の組み合わせを用いる。また、引用した資料に加え、分析に用いたデジタルツールに関しても何をどのように活用したか、適切な形で明記する。 学生には課題配布・提出システムを通して、授業課題に活用するフォームが配布され、フォーム内に上記の作業に従った回答フォーマットが用意される。 AA・TAは、学生からの質問・相談を受け付け、演習の実行を補助する。 ③講義パート(30分) 演習の講評を行う。模範的な提出課題を取り上げ、コメントを付けつつ定性研究の方法論を再度概観する。 ④演習(60分) 受講者は教員からのフィードバックを基に、最終的な授業課題の提出に向けた修正を行う。授業補助者であるAA・TAとの相談、割り当てられた授業内グループのメンバーと相互フィードバックを通し、提出する授業課題の内容の改善に取り組む。
指導補助チームへの研修事項	・演習パートのファシリテーション方法 ・ワークの作業手順 ・定性研究で活用できるデジタルツールとその実践例 ・デジタルツールの活用方法に関する注意点
評価方法	①講義パート: 確認テスト ②演習パート:

	提出フォーマットに沿って、下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。 - i 参照した資料、使用したデジタルツールを明記しているか。 - ii 一つ以上のデジタルツールを活用し、資料の分析を実践できているか。 - iii 比較分析において、複数の分野の視点を含めた記述ができているか。
授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	学生は教員から指定されたフォーマットの範囲で自身で任意の事例を取り上げ定性的研究の実践を行う。以下は、ある学生が授業課題に取り組むと仮定した一例である。 授業課題 - i 参照文献を教員指定の引用スタイルで明記する。また、その調査に使用したデジタルツールを同様に明記する。例えば、学生が比較する事例として、神奈川県藤沢市とアメリカ合衆国ワシントン州シアトルの緑化政策と実際の緑地面積の増加の関係をとり上げる場合は、該当二つの自治体に関する資料を収取して、それぞれ指定の引用スタイルで記載し、またその調査に用いたAI検索サービスや翻訳ツールを記載する。 - ii 資料の分析にデジタルツールを活用し、そのツールと使用方法を明記する。上述の例に従えば、例えばAI解析ツールを用いて、比較の観点を3つ取得し、得られた分析結果を批判的に検討した上で、主要な事例間の異なる点を要約した場合、使用したAI解析ツールの名称と分析の家庭での使用用途を記載する。 - iii 比較分析の結果を、複数の分野の観点から記述する。上述の例の場合、藤沢市とシアトルの緑化政策と緑地面積の影響は、行政学的な視点で自治体の予算の差が要因となっている、文化学の視点で市民の環境への意識の違いが要因となっているなどがあり得る回答の一形として挙げられる。 評価方法: 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。

第6回

タイトル	課題解決スキル演習1
授業概要	【講義・演習】課題解決スキル演習1（課題抽出の実践例を解説）
担当の教員グループ・方法論	全教員 各教員グループの専門とする方法論を横断的に活用
到達目標・DPとの関係	専門分野に縛られず、関心や課題ごとに適切なデータと手法を用いることで、変化の激しい社会にアジャイルに対応できるようになる。
授業詳細	①講義パート(120分) ・定量的な多変量解析と定性的なケーススタディを組み合わせてきた経営学の事例や、定量分析で問題領域を特定してからより深めるための事例研究を行う各領域の事例などを紹介し、複数の手法を適切に組み合わせることが問題背景の理解に役立つと理解する。 ・定量分析・定性分析を並べて学ぶことで、各手法・方法論の利点と限界を理解する。 ②演習パート(60分) ・第2回・第3回の演習で扱った定量分析によって特定した問題背景について、代表的な事例を探して記事・論文等を2つ以上収集する。収集した記事・論文等を読み、定量的に特定した問題の背景を3つ以上指摘する。
指導補助チームへの研修事項	・授業で扱う、定量分析と定性分析を組み合わせる手法と事例 ・定量分析、定性分析それぞれの長所と短所
評価方法	①講義パート:確認テスト ②演習パート: 下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。 - i 第2回、第3回に実施した定量分析を通して、特定した問題背景を指摘できている。 - ii 第2回、第3回の演習で検討した問題背景について、代表的な事例について記している記事・論文を2つ以上挙げられている。 - iii 記事・論文の内容から、定性的に特定した問題背景を3つ以上挙げている。
授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題 - i 緑化と環境問題という統一テーマに対して、課題として挙げられる要因を定量的な先行研究を根拠に指摘する。 - ii 第2回、第3回で指摘した問題背景について、それが決定的な要素となっている事例を紹介する記事・論文を2つ以上適切な引用フォーマットで記載する。例えば、第2回、第3回授業の中で緑化政策の成否が地方自治体の権限の強さに依存するとの問題背景を指摘した場合は、同様に緑化政策と地方自治体の権限の関連性を示した定量的な事例研究を2つ収集し、明記する。

	iii 定性的な先行研究を参考に緑化を阻害する問題背景を3つ以上明記する。学生は緑化と環境問題に関する定性研究の論文・記事を収集し、宗教的な自然観の差異、社会関係資本の強弱など、問題背景の要因となる要素を指摘する。尚、iiと同様に参照した文献を明記する。 評価方法： 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。学生が引用した資料については、回答に記載された内容と齟齬がないか確認し、齟齬があった場合は減点とする。
--	---

第7回

タイトル	課題解決スキル演習2
授業概要	【演習】課題解決スキル演習2(全体課題に対し定量・定性分析に基づく適切な課題を抽出)
担当の教員グループ・方法論	全教員 各教員グループの専門とする方法論を横断的に活用
到達目標・DPとの関係	専門分野に縛られず、関心や課題ごとに適切なデータと手法を用いることで、変化の激しい社会にアジャイルに対応できるようになる。
授業詳細	①講義パート(30分) 第6回授業講義パートの簡単な復習をする。第6回の演習パートで学生は実際に定量分析と定性分析を組み合わせたワークを実施しているため、より実践に寄せた理解が可能となる。さらに実際にグループでワークをする際の注意点を指摘した上で、授業内の成果物の作成フォーマットを提示する。 ②演習パート(60分) 第6回授業で実施した個人ワークを相互に発表し、フィードバックする。その上で、グループとして最終成果物に向けて足りなかった視点・より深掘りすべき視点を議論し、その内容についてデータを収集し、定量的に分析し、問題背景を指摘する。 ③講義パート(30分) 定量分析から定性的に深めるべき問題を特定するための手法について解説した後、統一テーマに沿った定性データの具体的な入手方法について複数紹介する。また、第8回授業で作成する中間レポートのフォーマットと発表方法について講義する。 ④演習パート(60分) ①演習パートでグループとして指摘した問題を元に、その問題についてより理解を深めるための事例・理論に関する記事や論文を、グループとして3つ以上収集する。その上で、最終成果物の作成に向けて深掘りしたい問題を2つ以上指摘し、なぜその問題が重要なのかを定量・定性の双方の視点からまとめる。
指導補助チームへの研修事項	・統一テーマに関して、定量分析と定性分析を組み合わせたワークを45分程度で実施する。 ・指導補助者間で、ワークの実施において困った点・気づいた点などをまとめ、担当教員からフィードバックを得る。 ・上記ワークを通じて得た気づきをファシリテーションにおいてどう活かすかをそれぞれまとめ、他の指導補助者と相互にレビューする。
評価方法	提出フォーマットに沿って、以下を確認する。

	i 第3回で実施したグループワークから、さらにどのようなデータを収集し、どのような分析をしたか、相関係数やグラフを用いて説明できている。 ii 定量分析で指摘した問題についてより具体的に説明している記事や論文を3本以上収集し、さらにその書誌情報を書いた上で、内容を整理できている。 iii i と ii に基づいて特定した問題を2つ以上指摘し、その問題の重要性を定量・定性の双方の視点から指摘できている。
授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題: i 第3回以降に収集したデータに関して、分析に用いた手法を分析結果の数値やグラフを用いて説明する。例えば、第3回から追加である地域の緑化状況と、人口における未成年の比率との相関分析を行った場合は、その結果得られた相関係数とグラフを記載する。 ii i で確認された問題について定量分析を行っている先行事例を論文・記事で3つ以上収集し、書誌情報を教員指定のフォーマットで明記し、内容の要約を記載する。例えば、緑化と人口における未成年比率というテーマで調査を行う場合は、関連する事例でそれぞれ異なる地域の研究を実施している3つの文献を読解し、何が共通していて特に重要な要素であるか等、要約としてまとめた文章を提出する。 iii i、ii で特定した問題を2つ明記し、その問題の重要性を定量・定性の双方から指摘する。例えば、緑化に関して人口における未成年比率が重要であるとの要因を取り上げる場合、若年層への教育的関心の高まりが影響するとの定性的な指摘、ある一定以上の未成年比率が得られた際に緑化に大きな正の影響が見られるなどの定量的な指摘の両方で重要性を記載することが回答案として挙げられる。 評価方法: 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。学生が引用した資料については、回答に記載された内容と齟齬がないか確認し、齟齬があった場合は減点とする。

第8回

タイトル	中間レポート・相互フィードバック1
授業概要	【演習】中間レポート・相互フィードバック1(フィードバックの目的方法の解説と、発表、相互フィードバック)
担当の教員グループ・方法論	全教員 各教員グループの専門とする方法論を横断的に活用
到達目標・DPとの関係	デジタルツールを用いたコミュニケーションを通じて、自身の議論を深掘りできるようになる。
授業詳細	①講義パート(20分) 自身の議論について他者に伝える方法、他者の発表に対して意見を伝える方法について講義する。その後、フィードバックシートについて学生に説明する。 ②演習パート(160分) 作業をする8グループが授業開始までに、これまで行ってきた統一テーマに関する定量・定性分析と、そこから導き出した重要と考える問題について10分程度で発表する。その後、他グループからのフィードバックを、10分で実施する。
指導補助チームへの事前研修	・中間レポート発表のファシリテーションの方法 ・学生による相互フィードバックのファシリテーションの方法
評価方法	学生個人で自身のグループ以外の7グループの発表についてフィードバックシートに記載し、指導補助者は提出フォーマットに沿って、以下を確認する。 i 他の全てのグループに対してフィードバックシートへのコメントを記載できているか ii 講義パートで示された評価方法に示された項目を網羅できているか iii 他のグループからの学びを、自身のグループにどう反映できているかを記載できているか。
評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題: i 同授業内で発表を行う、自チーム以外の7グループの発表に関するコメントを記載する。所定フォーマットで、発表手法として魅力的な点、論理構築で優れた点などの項目が用意され、各項目ごとにに関するコメントを記入する。 ii 自チームの発表が講義パートで示された項目を網羅できているかチェックを所定欄に記載する。チームのメンバーとともに客観的な判定をもとに現状の発表資料の自己評価を行う。 iii 他グループの発表と比較して、今後自チームの課題資料作成にどのように活かすことができるかの見通しを記載する。例えば、自チームの発表は説明のスライドに文字が多く視認性に欠点が認められるが、他チームの発

	表に見られたアニメーションなどの動的な図式化の手法を用いることで、より明快なプレゼンテーションを行うことができる等が回答の一例となる。 評価方法： 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。
--	---

第9回

タイトル	課題解決アウトプット演習1
授業概要	【講義・演習】課題解決アウトプット演習1（帰納的・演繹的な考え方と活用の解説）
担当の教員グループ・方法論	数理チーム・人文社会チーム 各担当チームの専門とする方法論、特に帰納・演繹的手法を活用
到達目標・DPとの関係	数理から人文社会まで、幅広い範囲の方法論を用いて問題を特定する手法を修得する。
授業詳細	①講義パート(120分) 帰納(事実・経験から問題を導く手法)と演繹(理論・前提から問題を導く手法)のそれぞれについて、数理、人文社会、経済経営の3つの観点から、それぞれに考え方・手法・事例を概観し、さらに帰納的手法・演繹的手法それぞれの長所と短所を説明する。また、個人ワークで用いる回答フォーマットについて説明する。 ②演習パート(60分) 講義パートの内容に基づいて、第7回までに収集した情報・分析結果を、帰納的な観点と演繹的な観点から整理し、個別課題を1つ設定する
指導補助チームへの研修事項	・帰納的・演繹的な問題の特定について、講義の内容について教員からレクチャーする。
評価方法	講義パート:確認テスト 演習パート: 提出フォーマットに沿って、下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。 i 統一課題から、さらに具体化された個別課題を導けているか ii 個別課題を導くにあたって、どのように帰納的・演繹的なプロセスを経たのかを記述できているか。
授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題: i 統一テーマである緑化と環境問題から、グループとして課題として取り上げる具体的なテーマを選定し記載する。例えば、「地方分権と緑化政策の成否」、「環境教育と緑化の取組への影響」などがテーマの例として挙げられる。 ii グループで取り扱う個別課題をどのように導いたか、機能的・演繹的分析の文脈で記載する。上述の例を用いるならば、Eオストロムのコモンズ論から、緑化政策にも地方自治体の権限の強度が重要となるであろうとの仮説を演繹的に導いたなどの記述が回答案に挙げられる。 評価方法:

	各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。学生が引用した資料については、回答に記載された内容と齟齬がないか確認し、齟齬があった場合は減点とする。
--	--

第10回

タイトル	課題解決アウトプット演習2
授業概要	【演習】課題解決アウトプット演習2(帰納的・演繹的な考え方と活用の実践)
担当の教員グループ・方法論	数理チーム、人文社会チーム 各担当チームの専門とする方法を横断・統合的に活用、特に帰納・演繹的手法を活用
到達目標・DPとの関係	数理から人文社会まで、幅広い範囲の方法論を用いて問題を特定する手法を修得する。
授業詳細	①講義パート(30分) 第9回授業講義パートの簡単な復習をする。第9回の演習パートで学生は実際に帰納と演繹を組み合わせた個人ワークを実施しているため、より実践に寄せた理解が可能となる。さらに実際にグループでワークをする際の注意点を指摘した上で、授業内の成果物の作成フォーマットを提示する。 ②演習パート(60分) 第9回授業で実施した個人ワークを相互に発表し、互いにフィードバックする。その上で、グループとして最終成果物に向けて足りなかった視点・より深掘りすべき視点を議論し、帰納・演繹の双方の視点からグループとしての個別課題を決定する。 ③講義パート(30分) 個別課題の設定について注意点を解説した後、個別テーマの解決策を提示する上で気にすべきポイントを複数列举する。特に、第10回・第11回授業でステークホルダーに注目した講義とワークを実施する点を強調する。 ④演習パート(60分) 帰納的手法と演繹的手法に基づいて決定したグループとしての個別課題の解決策を検討する上で抑えておくべきポイント、およびそのために必要な情報を明確化する。その上で、最終成果物の作成に向けて深掘りしたいポイントを2つ以上指摘し、なぜそれが重要なのか回答フォーマットにまとめる。
指導補助チームへの研修事項	・統一テーマに関して、帰納と演繹を組み合わせて個別課題を特定するワークを45分程度で実施する。 ・指導補助者間で、ワークの実施において困った点・気づいた点などをまとめ、担当教員からフィードバックを得る。 ・上記ワークを通じて得た気づきをファシリテーションにおいてどう活かすかをそれぞれまとめ、他の指導補助者と相互にレビューする。
評価方法	講義パート: 確認テスト 演習パート: 提出フォーマットに沿って、下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。

	- i グループとして、個別課題を提示できているか - ii 個別課題を提示するために用いた帰納的視点・演繹的視点を明示できているか - iii 解決策の提示に向けて深掘りすべきポイントを2つ以上指摘できているか
授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題: - i 最終的にグループとして合意した個別課題を記述する。第9回の課題を経て最終的な個別テーマの決定を確認する。 - ii 個別課題の設定に用いられた、帰納的・演繹的観点を記載する。第9回の ii の課題と同様に、テーマ導出の参考にした分析結果や理論を明記した上で、個別課題提示の根拠を示す。 - iii 解決策の定時に向けて深掘りをするポイントを2つ以上指摘する。第9回の ii で使用した例を用いるならば、どのように地方自治体の権限が強まる行政構造が形成されているか、緑化を実施するアクターがどのようにマネジメントされているかなどが回答案として挙げられる。 評価方法: 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。学生が引用した資料については、回答に記載された内容と齟齬がないか確認し、齟齬があった場合は減点とする。

第11回

タイトル	課題解決アウトプット演習3
授業概要	【講義・演習】課題解決アウトプット演習3(ステークホルダーの理解と解決策に向けた手法の解説)
担当の教員グループ・方法論	人文社会グループ・経済経営グループ 各グループ教員の専門分野におけるステークホルダー分析の方法論
到達目標・DPとの関係	特定の問題をめぐる様々な文化・価値観・倫理等の視点を紐解き、解決策の提示において考慮できるようになる。
授業詳細	①講義パート(120分) まず、主に経済経営分野で行われるステークホルダー分析について、その重要性、分析手法、解決策との接続方法について学ぶ。その後、社会学や人類学など、人を扱う研究分野において、どのようにステークホルダーを特定し、分析するかについて学ぶ。また、個人ワークの回答フォーマットについて説明する。 ②演習パート(60分) グループごとに設定した個別課題について、ステークホルダーを5つ以上挙げ、それぞれの利益と課題、およびその対立をまとめる。
指導補助チームへの研修事項	・ステークホルダー分析に関する各領域の手法・事例 ・ステークホルダーの特定を、どのように解決策の提示に繋げるか
評価方法	講義パート:確認テスト 演習パート: 提出フォーマットに沿って、下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。 i ステークホルダーを5つ以上挙げ、それぞれのステークホルダーが抱える利益と課題を明記できているか ii ステークホルダー間にどのように利益と課題の衝突が予想されるかを明記できているか
授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題: i グループで分析する事例に関わるステークホルダーを5つ以上取り上げ、それぞれの利益や課題を明記する。例えば、分析する事例を神奈川県逗子市における緑化活動とすると、住民は景観の向上を利益とし、政策実施における住民税負担を課題と捉えるなどが回答の一案として挙げられる。 ii i で記述したステークホルダー間で予想される衝突を記載する。例えば、上述の例を引くと、住民とある企業との間で、緑化の景観的な価値判断と経済的な価値判断のどちらを重視するかで摩擦が起きるなどが回答の一案として挙げられる。 評価方法:

	各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。学生が引用した資料については、回答に記載された内容と齟齬がないか確認し、齟齬があった場合は減点とする。
--	--

第12回

タイトル	課題解決アウトプット演習4
授業概要	【演習】課題解決アウトプット演習4(ステークホルダーなどの考え方も踏まえた解決策の検討と最終成果物の準備)
担当の教員グループ・方法論	人文社会グループ・経済経営グループ 各グループ教員の専門分野におけるステークホルダー分析の方法論
到達目標・DPとの関係	特定の問題をめぐる様々な文化・価値観・倫理等の視点を紐解き、解決策の提示において考慮できるようになる。
授業詳細	①講義パート(30分) 第11回授業講義パートの簡単な復習をする。第11回の演習パートで学生は実際にステークホルダー分析の個人ワークを実施しているため、より実践に寄せた理解が可能となる。さらに実際にグループでワークをする際の注意点を指摘した上で、授業内の成果物の作成フォーマットを提示する。 ②演習パート(60分) 第11回授業で実施した個人ワークを相互に発表し、互いにフィードバックする。その上で、グループとして最終成果物に向けて足りなかった視点・より深掘りすべき視点を議論し、ステークホルダー間に発生するジレンマの視点からグループとしての解決策の方向性を決定する。 ③講義パート(30分) 解決策の提示について注意点を解説した後、個別テーマの解決策を提示する上で気にすべきポイントを複数挙げる。 ④演習パート(60分) ステークホルダー分析を元に、個別課題の解決策に向けて特にどのステークホルダーに注視するのかを決定する。また、ここまで分析してきた課題の特性・関係するステークホルダー等を受けて、解決策を補強するために必要な情報を特定する。
指導補助チームへの事前研修	・ステークホルダー分析を実施する上での注意点と、ファシリテーションの方法
評価方法	講義パート:確認テスト 演習パート: 提出フォーマットに沿って、下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。 i グループとして、特に注視すべきステークホルダーを特定できているか ii そのステークホルダーに注視する理由を、他のステークホルダーの利益等も踏まえて説明できているか
評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題:

	i グループとして特に注視するステークホルダーを選定し記載する。第11回授業課題 i の事例を用いると、神奈川県逗子市の自然公園を運営するアクターなどが回答例となる。 ii i で選出したステークホルダーに注視する理由をその他のステークホルダーとの関連性を基に記載する。上述の例を用いるならば、自然公園を運営するアクターは、市役所からどれだけの権限が委譲され、成果を挙げられているか、地域住民から活動に関する理解を得られているかなどの観点を記載することが回答の一案となる。 評価方法： 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。学生が引用した資料については、回答に記載された内容と齟齬がないか確認し、齟齬があった場合は減点とする。
--	--

第13回

タイトル	課題解決アウトプット演習5
授業概要	【講義・演習】課題解決アウトプット演習5(最終成果物の発表に向けた伝え方、表現手法の解説)
担当の教員グループ・方法論	情報グループ・経済経営グループ 各グループ教員の専門分野におけるプレゼンテーション手法
到達目標・DPとの関係	幅広い視点を用いて論点を整理し、主体的に解決策を提示して表現できるようになる。
授業詳細	①講義パート(30分) 設定した解決策を、どのようにわかりやすく説明するために論点を整理するか、デジタルツールを用いてアウトプットする手法について講義する。また、演習の回答フォーマットについて説明する。 ②演習パート(60分) グループごとに設定した解決策の論点をまとめ、デジタルツールを用いて資料を作成する。 ③講義パート(30分) 第14回授業で実施する発表・相互フィードバックについて説明し、発表方法における注意点、および質疑応答に準備する方法を説明する。 ④演習パート(60分) 作成した資料に基づいて、グループ間での発表の分業体制について決定し、さらに想定される質疑に関する準備をする。
指導補助チームへの事前研修	・個別に関して、特定した解決策をアウトプットに繋げるワークを45分程度で実施する。 ・指導補助者間で、ワークの実施において困った点・気づいた点などをまとめ、担当教員からフィードバックを得る。 ・上記ワークを通じて得た気づきをファシリテーションにおいてどう活かすかをそれぞれまとめ、他の指導補助者と相互にレビューする。
評価方法	講義パート: 確認テスト 演習パート: 提出フォーマットに沿って、下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。 - i グループで合意した解決策を明記できているか。 - ii 最終成果物で注意した点を、回答フォーマットに準じて明記できているか。 - iii 発表に対して想定される質問と回答案を、3つ以上明記できているか。
授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題:

	i グループで合意した解決策を明記する。例えば、神奈川県逗子市の緑化課題の解決をグループの課題とした時に、グリーンツーリズム推進を自治体、NPO共同で行うことなどが回答例に挙げられる。 ii 発表資料の作成で注意をした点を明記する。例えば、プレゼンテーション使用の視認性確保のために、発表資料をWebサイトの形で作成し、そこで使用したツールと意図、効果を記載するなどが回答例に挙げられる。 iii 第14回で実施する発表に向けて想定される質問と回答を3つ以上記載する。上述の例を基にすると例えば、グリーンツーリズムが緑化に貢献した事例はあるのかという想定質問に対して、該当の先行事例を回答として用意しているなどが回答例となる。 評価方法： 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。
--	---

第14回

タイトル	最終成果物の発表・相互フィードバック2
授業概要	【演習】最終成果物の発表・相互フィードバック2(発表、相互フィードバックの実践)
担当の教員グループ・方法論	情報グループ、経済経営グループ 各グループ教員の専門分野におけるプレゼンテーション手法
到達目標・DPとの関係	幅広い視点を用いて論点を整理し、主体的に解決策を提示して表現できるようになる。
授業詳細	①講義パート(20分) 発表と相互フィードバックにおける注意点を解説し、さらに相互フィードバックのフォーマットについて説明する。 ②演習パート(160分) 作業をする8グループが授業開始までに、これまで行ってきた個別テーマの背景と、そこから導き出した解決策について10分程度で発表する。その後、他グループからのフィードバックを、10分で実施する。
指導補助チームへの研修事項	・最終発表、および相互フィードバックのファシリテーションについて
評価方法	学生個人で自身のグループ以外の7グループの発表についてフィードバックシートに記載し、指導補助者は提出フォーマットに沿って、以下を確認する。 i 他の全てのグループに対してフィードバックシートへのコメントを記載できているか ii 講義パートで示された評価方法に示された項目を網羅できているか iii 他のグループの発表やフィードバックを受けて、自身のグループがよくなっていたことと反省点は何か
授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題: i 同授業内で発表を行う、自チーム以外の7グループの発表に関するコメントを記載する。所定フォーマットで、発表手法として魅力的な点、論理構築で優れた点などの項目が用意され、各項目ごとにコメントを記入する。 ii 自チームの発表が講義パートで示された項目を網羅できているかチェックを所定欄に記載する。チームのメンバーとともに客観的な判定をもとに現状の発表資料の自己評価を行う。 iii 他グループの発表と比較しての、自チームの優れた点、反省点を記載する。例えば、自チームはデジタルツールを用いた発表資料の効果的な提示の仕方においては優れていたが、論理的な説明の仕方の観点では他チームより粗い部分が見られた等が回答の方向性の一案に挙げられる。 評価方法:

	各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。
--	--

第15回

タイトル	まとめ
授業概要	【講義・演習】最終講評
担当の教員グループ・方法論	全教員 各分野における方法論を横断・統合的に活用
到達目標・DPとの関係	幅広い視点を用いて論点を整理し、主体的に解決策を提示して表現できるようになる
授業詳細	①講義パート(150分) 指導補助者が自身の担当するグループから、特に優れた事例を推薦し、5グループが発表する。各グループは10分間で発表し、担当教員から各20分の講評を得る。講評を担当する教員は、数理グループ・情報グループ・人文社会グループ・経済経営グループから各1名が担当する。学生は、発表した各グループの優れた点・見習える点について回答フォーマットに記載する。 ②演習(60分) 学生は、発表した各グループの優れた点・見習える点について、個人ワークとして回答フォーマットに記載する。
指導補助チームへの研修事項	・特になし
評価方法	講義パート:確認テスト 演習パート: 提出フォーマットに沿って、下記の項目ごとに達成の有無を確認し加点していく。 ⅰ 回答フォーマットの基準に従って、自身のグループの改善点を指摘できているか
授業課題と評価の例 (緑化と環境問題をテーマ例として)	授業課題: ⅰ 回答フォームに従い、自チームの発表の改善点を明記する。例えば、自チームは演繹的手法を用いた理論構築を行ったが、該当の理論に関する参考文献は3つに留まるため説得力に不足しており、より多くの理論研究に関する文献を読み強固な論理構築を行うことで改善が図れる等が回答の一例となる。 評価方法: 各項目に対して、正しく指示を実行できているかを判断し、達成した項目数に応じて評価を行う。